

科目コード ENV021245

科目名	知的財産と経営 Intellectual property and business management		選択	2単位
学期・曜日・時限	秋・金・4限	秋・金・5限	-	-
担当教員名	阿部 仁	e-mail		
講義形式	ハイフレックス（教員は学外から講義を実施するが2回程度は講義室から行う場合がある。）※対面履修生は全回講義室から参加			
<p>&lt;講義の概要と目的&gt;</p> <p>本授業では、知的財産（特許、商標、著作権、意匠、営業秘密など）の法的基盤と経営への影響について学ぶ。特に、企業戦略としての知的財産管理、イノベーションの促進、競争優位性の獲得について深く掘り下げる。また、実際のケーススタディを通じて、知的財産の活用方法やリスク管理について実践的に学修する。</p> <p>&lt;到達目標&gt;</p> <p>知的財産の基礎的な法的枠組みを学修し、経営における知的財産の戦略的な重要性を把握して、知的財産の活用方法について実践的に学んだ上で、知的財産に関するリスク管理とその対応についても実践できる事を目標とする。</p> <p>&lt;アクティブ・ラーニング要素&gt;</p> <p>グループワークやディスカッションを行い、受講者同士が意見を交換しながら学びを深める。事例を基にした知財戦略について考察して他者と議論を行い、チームビルディングを通じ協働スキルを育成する事で、アクティブ・ラーニングによる主体的な学習を実施する。</p> <p>&lt;講義計画&gt;</p> <p>講義計画は以下の通り。ただし講義の進行状況によっては、講義計画を若干変更する場合がある。</p> <p><b>1回目：&lt;オリエンテーションおよびイントロダクション&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・要点：知的財産とは何か、知的財産の分類（特許、商標、著作権、営業秘密、意匠）や企業における知的財産の重要性を理解する。授業の進行と成績評価の説明を行う。</li> </ul> <p><b>2回目：&lt;特許の基礎&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・要点：特許制度の概要や特許取得のプロセス、特許権の活用法、特許の経済的・戦略的価値などを学ぶ。</li> </ul> <p><b>3回目：&lt;商標とブランド戦略&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・要点：商標の定義と機能を理解し、商標権の取得方法と維持管理について学修する。そしてブランド価値と商標権の役割について学び、実際の商標紛争とその対策について理解する。</li> </ul> <p><b>4回目：&lt;著作権の基礎&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・要点：著作権の対象と保護範囲、デジタル時代における著作権の課題について学び、著作権侵害のリスクとその回避策について理解する。また著作権のビジネスモデル特にライセンス契約などについて学修する。</li> </ul> <p><b>5回目：&lt;営業秘密と企業の競争優位性&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・要点：営業秘密の保護方法を学び、営業秘密と特許権の相違を理解した上で、営業秘密漏洩のリスク管理について把握し、営業秘密についての事例を学ぶ。</li> </ul> <p><b>6回目：&lt;意匠権と製品デザイン&gt;</b></p>				

・要点：意匠権の概念とその重要性について理解する。また、意匠権の取得と活用の実際を学修し、製品デザインと企業戦略について把握した上で、意匠権を用いたビジネス事例について学ぶ。

#### **7回目：＜知的財産の国際的側面＞**

・要点：国際知的財産制度の概要について学修する。知的財産権のグローバル展開について理解し、国際的な知的財産紛争とその対応策を把握する。また、クロスボーダーでの知的財産権管理の実際について、事例を交えて学ぶ。

#### **8回目：＜デジタル時代の知的財産＞**

・要点：AI、IoT、ブロックチェーンと知的財産との関係について理解する。デジタルプラットフォームでの知的財産保護の重要性を学び、メタバースと知的財産の新しい課題を考察する。

#### **9回目：＜知的財産権に関するリスク管理と侵害対応＞**

・要点：知的財産に関するリスク（紛争・訴訟・差止・損害賠償等）の全体像を理解し、侵害を主張される場面の初動対応と実務上の判断枠組みを学修する。

また、知的財産訴訟の基礎、侵害対応の法的手段（警告・交渉・仮処分・訴訟・和解等）を整理し、ケーススタディを行う。

#### **10回目：＜イノベーションと知的財産戦略＞**

・要点：イノベーションの推進と知的財産の関係について把握する。オープンイノベーションではどの様に知的財産が扱われるかを学び、共同研究やライセンス契約について理解を深める。さらに、成功企業の知的財産戦略について分析を行う。また、スタートアップにおける知的財産の重要性を理解し、その知財戦略を学ぶ。

#### **11回目：＜知的財産権とビジネスモデル＞**

・要点：知的財産権を活用したビジネスモデルの構築について学ぶ。知的財産ポートフォリオの戦略的管理を学修し、特許、商標、著作権を利用した企業価値の最大化についての事例研究を行う。

#### **12回目：＜知財交渉ワークショップ①（基礎講義＋事前準備）＞**

・要点：交渉学の基礎（交渉の目的、交渉構造、利害の見立て、情報設計、合意形成）を学修したうえで、知財交渉に必要な事前準備（論点整理、条件設計、BATNA/目標/譲歩幅の設計、社内稟議の想定など）を行う。

ケースを用いて、交渉戦略と交渉シナリオをグループで作成し、翌週の模擬交渉に備える。

#### **13回目：＜知財交渉ワークショップ②（模擬交渉＋フィードバック）＞**

・要点： 前回作成した交渉準備資料に基づき、ロールプレイ形式で模擬交渉を実施する。

交渉結果のレビューを通じて、合意の質（条件・実現可能性・再現性）を評価し、プロセス面（質問設計、譲歩設計、アンカリング、対立の収束）を中心にフィードバックを行う。

#### **14回目：＜ケーススタディとディスカッション＞**

・要点：実際の企業の知的財産戦略に基づくケーススタディを行う。グループディスカッションとプレゼンテーションを通して、知的財産を活用した経営戦略の分析手法を身に着ける。

#### **15回目：＜まとめと最終プレゼンテーション＞**

・要点:授業の総まとめとして、14回目のケーススタディの結果のプレゼンテーションを実施。企業の知的財産戦略提案について自らの見解について説明し、質疑応答とフィードバックを行う。

#### **＜講義の進め方＞**

説明、解説により講義を進める。9回は講義と自学修（グループに分かれて相互研鑽）、12回目と13回目はロールプレイによる模擬交渉を実施。また14回目と15回目はグループ討議と討議結果の発表をグループ毎に行う。1-15回を阿部が担当。

科目コード ENV021245

<p>&lt;事前事後学習内容&gt;</p> <p>事前配布テキストを予習、復習すること、小規模な宿題を毎回出題するので期限内に提出すること。グループワークでは指示されたレポートを提出する。</p>
<p>&lt;予習・復習時間&gt;</p> <p>各回の予習・復習には計4時間相当かかると想定され、詳細については講義時に指示をする。</p>
<p>&lt;教科書及び教材&gt;</p> <p>講義に使用するテキストは配布する。</p>
<p>&lt;参考書&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"><li>1. 『知的財産戦略』 丸島儀一著、ダイヤモンド社 (2011/10/7)。</li><li>2. 『法務・知財パーソンのための 契約交渉のセオリー』 一色正彦, 竹下洋史著、レクシスネクシス・ジャパン (2014/12/17)</li><li>3. 『ICT知財戦略の基本がよ〜くわかる本[電子書籍版]』 平塚三好, 阿部仁著, 秀和システム (2015/6/25)</li><li>4. 『知的財産管理技能検定3級公式テキスト』 知的財産教育協会 編/発行・発売: 株式会社アップロード (2015/6/25)</li></ol>
<p>&lt;成績評価方法&gt;</p> <p>欠席6回以上は成績評価しない。</p> <p>毎回課す宿題の実施状況と、グループディスカッション後のレポート、講義でのディスカッションを4:4:2の比率にて評価する</p>
<p>&lt;課題(試験やレポート等)に対するフィードバック方法&gt;</p> <p>TeamsのChatあるいはメールにて個別にフィードバックを行う。</p>
<p>&lt;履修条件&gt;</p> <p>特に設けず基礎から学修する。</p>
<p>&lt;ディプロマポリシーとの関連&gt;</p> <p>アントレプレナーシップ発揮に必要な専門的かつ実践的知識の学修に該当</p>
<p>&lt;録画映像の視聴&gt; 可</p>
<p>&lt;オフィスアワー&gt;</p> <p>月曜日5限</p> <p>その他の時間であっても水曜日以外であれば可能である。事前にメールにて連絡のこと。</p>
<p>&lt;その他&gt;</p> <p>講義で使用するテキストに加え、参考書、および知的財産に関する書籍、新聞記事を適宜学修のこと。</p>